

## 福井市足羽山におけるウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre) の採集記録

梅村 信哉\*

A collection record of *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre) at Mt. Asuwa, Fukui City, Fukui Prefecture  
Shinya UMEMURA\*

(要旨) 2025年6月20日に、福井市足羽山においてウマノオバチ1♀が採集された。

キーワード：ウマノオバチ, 足羽山, 福井市

ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre) はハチ目コマユバチ科 (Hymenoptera: Braconidae) に属する寄生蜂の一種である。体長は15~24mmであるが、メスが体の6.5~9倍に達する極めて長い産卵管を持つのが特徴である。国内では本州、四国、九州に分布し、国外では朝鮮半島、台湾、ラオス、タイ、インドから記録されている (平嶋・森本, 2008)。本種は、里山環境の悪化による営巣地や宿主の減少により、国内の広い範囲で減少の報告があることを理由に (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015)、環境省の2020年版レッドリストでは準絶滅危惧に選定されている (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020)。

福井県内においては、本種は“坂井郡桑村” (福井県博物学会, 1938) に戦前の記録があるほか、高浜町青葉山 (渡辺ほか, 2012)、あわら市、越前町で確認されている。しかし、記録は少なく、評価するだけの情報が不足していることを理由に、「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物」においては情報不足に選定されている (福井県安全環境部自然環境課, 2016)。最近では、大宮 (2021) があわら市浜坂で本種の採集記録を報告しているが、依然として生息情報が少ないのが現状である。

筆者は、福井市足羽山において本種を採集したので、下記のとおり報告する。

ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre)  
福井市足羽山, 1♀, 20-VI-2025, 梅村信哉採集,  
福井市自然史博物館保存 (FCMNH-JI38264 図1)

ウマノオバチは、シロスジカミキリ *Batocera lineolata* Chevrolat の幼虫に寄生するとされてきたが (平嶋・森本, 2008)、加賀ほか (2018) の観察により、

ミヤマカミキリ *Massicus raddei* (Blessig) の蛹に寄生していたことが報告されている。最近、足羽山においてカミキリムシ相を調査した事例では、ミヤマカミキリが優占種となっていた一方でシロスジカミキリは確認されなかったことが報告されており (立松, 2024)、足羽山でもミヤマカミキリが十分な個体数生存することが、ウマノオバチの生息を可能にしているものと推測される。

近年、神奈川県をはじめ各地でクリ畑や畑周辺の雑木林におけるウマノオバチの観察事例が増えているという (長瀬, 2008; 後藤, 2015; 荻部・加賀, 2017)。加賀ほか (2018) は、農家の高齢化・省力化により枝打ちなどの管理が行われなくなり、収穫を目的としない



図1 福井市足羽山で採集されたウマノオバチ。  
(福井市足羽山, 2025-VI-20, 梅村信哉採集, 福井市自然史博物館保存 (FCMNH-JI38264))

\* 福井市自然史博物館 〒918-8006 福井市足羽上町147  
Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami, Fukui City, Fukui 918-8006, Japan

クリ畑が都市近郊で増えたことを指摘している。その結果、樹勢の衰えかけた木がミヤマカミキリの産卵・食害を多く受けるようになり、寄主と遭遇する機会が増えたことで、ウマノオバチが増加したと推察している。ミヤマカミキリの幼虫は、コナラやクスギなども食害することが知られており（大林ほか、1992）、雑木林の手入れが放棄されることによっても、今後、ミヤマカミキリの増加を通じてウマノオバチの観察例が変化する可能性がある。本種のメスは、産卵管が非常に長いという特徴的な外部形態を持つことから、専門知識がなくても同定が可能である（大宮、2021）。今後、標本記録に加えて写真記録、目撃記録の蓄積により、県内での本種の生息状況の解明が進むことが望まれる。

### 引用文献

- 福井県安全環境部自然環境課編、2016、改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物2016。福井県安全環境部自然環境課、536p.
- 福井県昆虫学会編、1938、原色福井県昆虫図譜。福井県博物学会、42p+75pls.
- 後藤和夫、2015、ウマノオバチ調査報告（2014年）。山口のむし、(14) P133.
- 平嶋義宏・森本 桂監修、2008、新訂 原色昆虫大圖鑑 第三卷（トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目他）。北隆館、654p.
- 加賀玲子・川島逸郎・苺部治紀、2018、ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre, 1898) (Insecta: Hymenoptera: Braconidae) の生活史、特にその寄主について。神奈川県立博物館研究報告・自然科学、(47)、59-66.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編、2015、レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-5 昆虫類。ぎょうせい、509p.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編、2020、環境省レッドリスト2020。https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf 18-X-2025 閲覧
- 苺部治紀・加賀玲子、2017、神奈川県におけるウマノオバチの生息状況-おもに中西部の調査から-。神奈川県虫報、(193)、98-100.
- 長瀬博彦、2008、神奈川県昆虫誌（ハチ目）、補遺-3。神奈川県虫報、(164)、41-54.
- 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三編、1992、日本産カミキリムシ検索図説。東海大学出版会、696p.
- 大宮正太郎、2021、あわら市浜坂におけるウマノオバチの記録。Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）、24、33-34.
- 立松拓樹、2024、福井市足羽山のカミキリムシ相。福井市自然史博物館研究報告、(71)、41-46.
- 渡辺恭平・田埜 正・黒川秀吉・室田忠男・野坂千津子、2012、福井県における寄生蜂の採集記録。つねきばち、(21)、1-78.

### A collection record of *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre) at Mt. Asuwa, Fukui City, Fukui Prefecture

Shinya UMEMURA

### Abstract

A female of *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre) was collected at Mt. Asuwa, Fukui City, Fukui Prefecture on 20th June, 2025.

### Key words

*Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre), Mt. Asuwa, Fukui Prefecture